

「スマート脳ドック」の受診者が開業 1 年半で 2 万人を突破

全体の 8 割が脳ドック初受診。受診者は全国から、親子、夫婦などのペア受診も増加傾向
2 万人の検査結果データを分析、認知症、脳卒中発症の予知に関わる「白質病変」の世代傾向とは

“脳ドック”に特化した画像診断サービスを提供するメディカルチェックスタジオ（東京都中央区、院長：知久正明 以下「MCS」）は、2018 年 1 月のサービス開始以来、1 年半が経過した 2019 年 5 月末時点において、「スマート脳ドック」の受診者数が 2 万人を突破いたしました。これを機に、2 万人分の検査結果を分析し、今後の未病対策に繋がるよう受診者データや各世代別の疾患傾向など一部の情報を公開することといたしましたのでお知らせいたします。

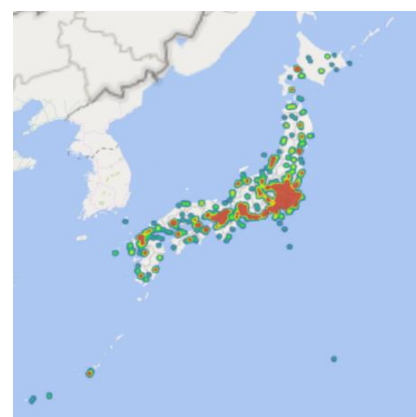
■1 年半で 2 万人に利用いただいた「スマート脳ドック」とは

これまで脳ドックは、「費用が高額」「待ち時間が長い」「結果が出るまで時間がかかる」などの理由から、受診のハードルが高いとされてきました。MCS が提供する「スマート脳ドック」は、17,500 円という低価格、来院からお帰りまで 30 分、診断結果は 1 週間後にスマホから閲覧可能、診療科目の異なる医師 3 人のトリプルチェックに加え AI 画像診断（研究開発中 ※1）を実施するなど、検診の利便性や正確性を高め、開院から 1 年半で 2 万人にご利用いただいております。

■「スマート脳ドック」 5 つの受診者傾向

今後の未病対策に繋げていく為にも、2 万人分の受診者データや検診結果を詳しく分析いたしました。受診者傾向については下記のような 5 つの傾向が見られます。

- ①日本全国（47 都道府県全域）からの来院（海外在住者も増加傾向）
- ②全体の約 8 割は脳ドック検診を初受診
- ③受診者のボリュームゾーンは 40 代以下
- ④男女比は 6：4
- ⑤夫婦や親子、カップルなどのペア受診（2 名予約）、母の日や父の日などの家族間プレゼントとして「検診ギフト」も増加傾向

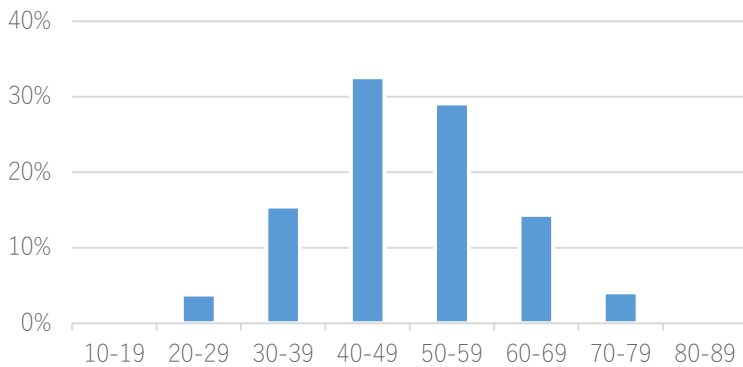


「スマート脳ドック」受診者 居住地分布図

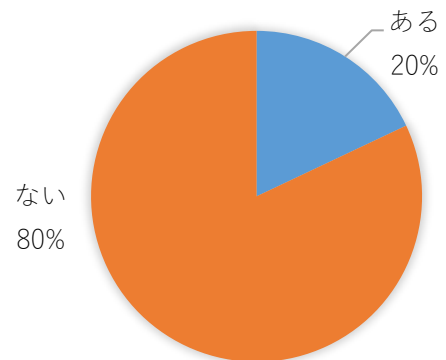
■年代別受診者構成

受診者データを見てみると全体の約 8 割は脳ドック検診が初受診となっています。また、年代別に見てみると、40 代以下が約半数以上を占めていることから、若い世代の脳ドック検診への関心は高く、利便性を高めることで受診率も高まる傾向にあります。

年代別脳ドック割合



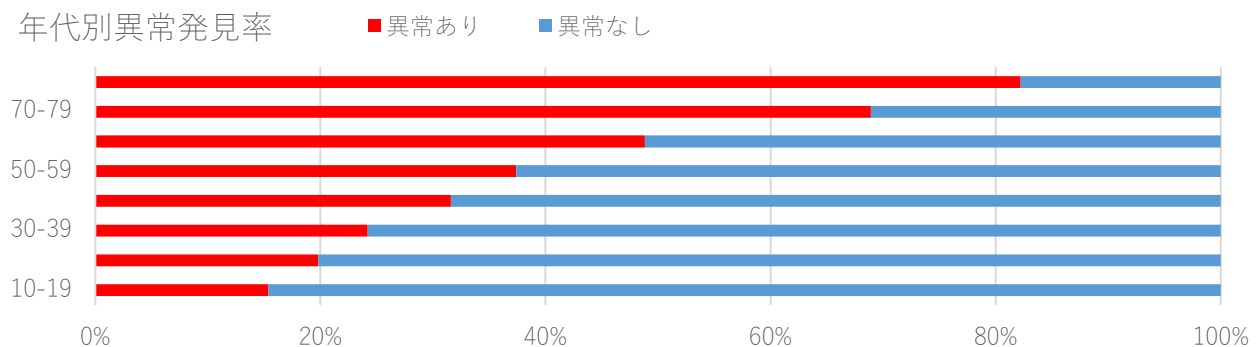
脳ドック歴別受診率



■年代別異常発見率

受診データから年代別に異常発見率を見てみると、年齢が高くなるほど何らかの脳疾患などの異常発見率が高まっています。一方で30代から40代においては約3割、20代でも約2割の異常が発見されており年齢に関わらず早期の脳ドックを受診することで、多くの異常発見につながっています。

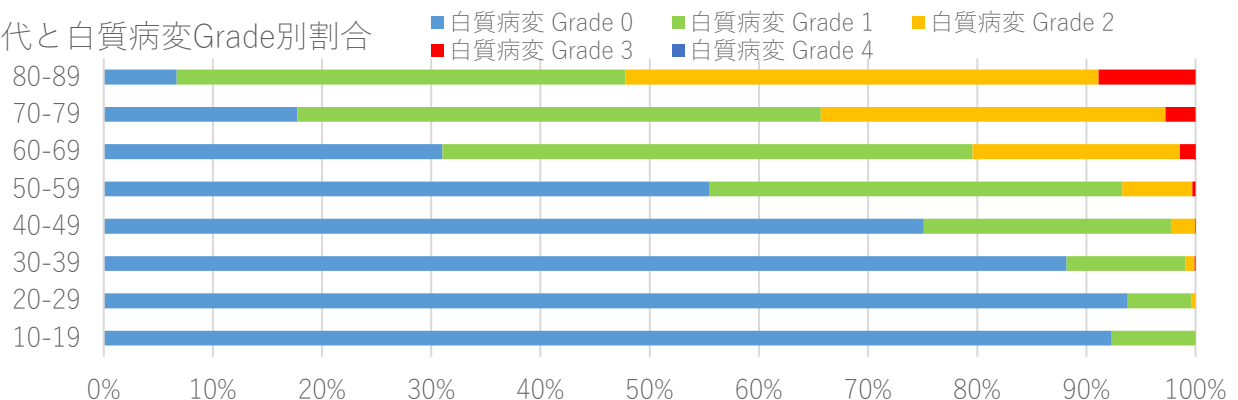
年代別異常発見率



■認知症や脳卒中発症の予知に関わる「白質病変 ※2」の年代別発見率

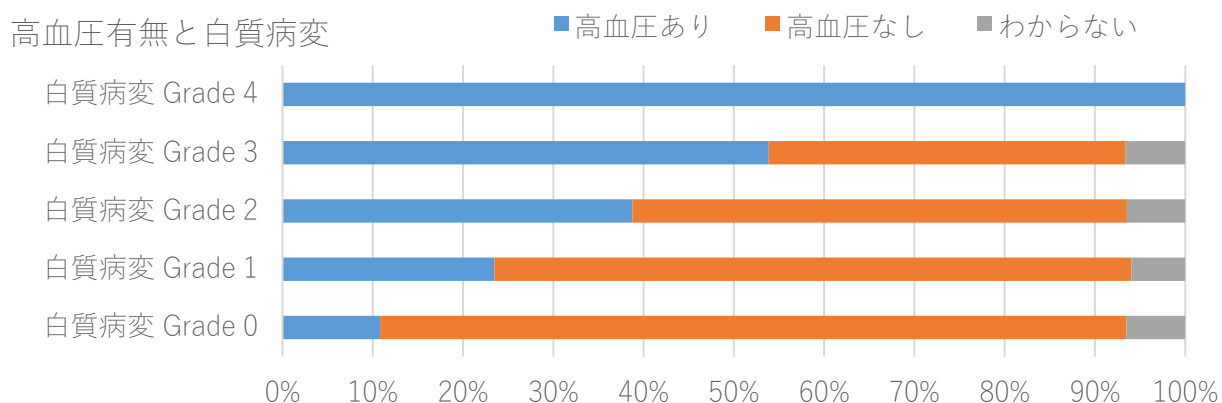
脳内の血流低下がおよぼす「白質病変」は、認知症や脳卒中発症の予知に繋がると言われています。年代毎に白質病変のGrade別を見てみると、年齢が上がるにつれGradeも上がっている事が分かります。、さらに、働き世代である30~40代では約2割に白質病変の初期段階であるGrade 1が発見されています。早期発見による生活習慣改善などで、将来の認知症や脳卒中発症予防に繋がっていくことができます。

年代と白質病変Grade別割合

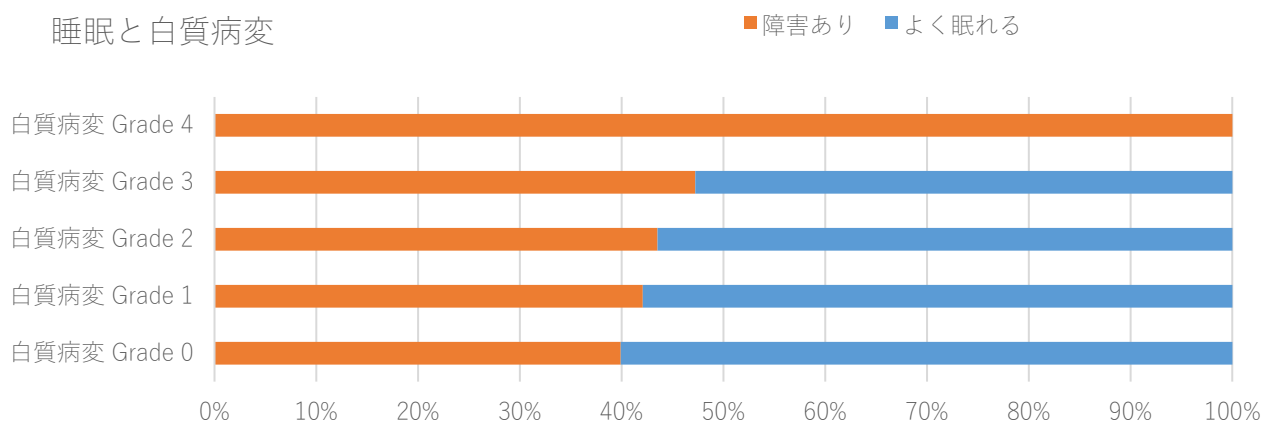


■白質病変と高血圧、肥満、睡眠などの生活習慣との関係

次に、白質病変と生活習慣に着目しました。まず、受診者の高血圧有無との関係では、白質病変の Grade が高まるにつれ、高血圧の割合が増えています。

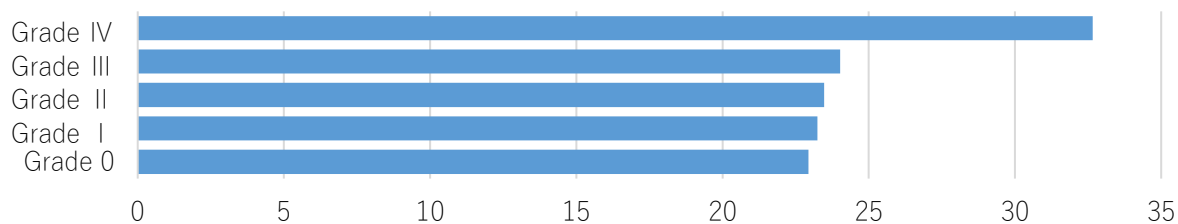


また、睡眠についても、Grade が上がると睡眠障害と回答する受診者の割合が増える傾向にあります。



さらに、BMI についても Grade が高まるにつれ肥満度が高い傾向にあります。これらの結果は、脳の加齢変化はライフスタイルの影響を受けている可能性が高いことを示唆しています。

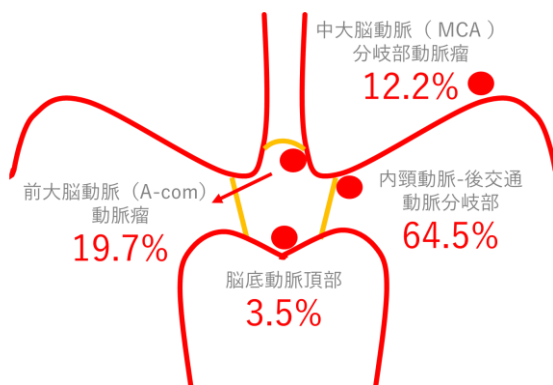
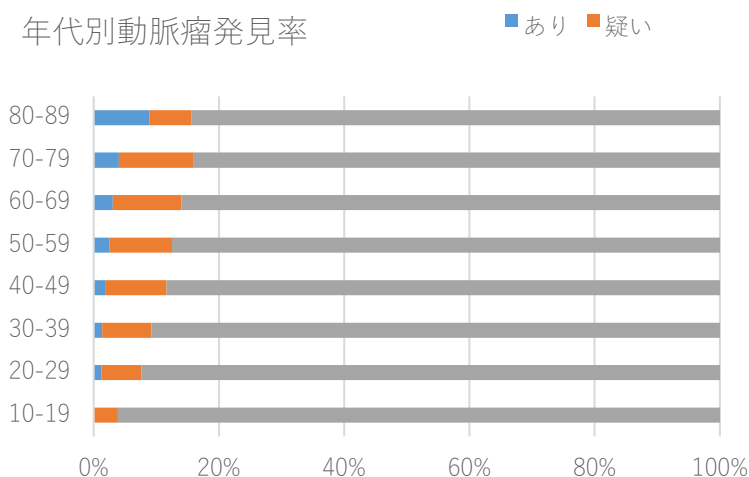
白質病変とBMI



■くも膜下出血の原因となる「脳動脈瘤」の年代別発見率および発見部位

続いて、年代と脳動脈瘤発見の割合を見てみると、年齢に比例して脳動脈瘤の疑いや発見率が高くなっています。また、動脈瘤が発見された受診者の動脈瘤部位では、「内頸動脈-後交通動脈分岐部」と呼ばれる部位が全体の約6割を占めている事がわかりました。

年代別動脈瘤発見率



■「スマート脳ドック」の特徴

「スマート脳ドック」は、「頭部 MRI」「MRA」「頸部 MRA」の診断を行い、脳血管の破裂リスクとなる脳動脈瘤、脳の血管がつまる脳梗塞、さらには脳腫瘍など、自覚症状のない異常箇所を調べる画像検査です。現在の状態を知ることが未病改善につながります。

<主な特徴>

1. 継続しやすい価格

「脳 MRI」「MRA」「頸動脈 MRA」が、わずか 17,500 円（税込 18,900 円）にて受診可能です。

2. カンタン予約

予約は Web から。検査時間は 30 分。いつもの服装のまま、スキマ時間に受診できます。

3. 正確

放射線科医師と脳神経外科医師、循環器内科などのトリプルチェック体制 ※3 および AI 画像診断（研究開発中）により、見逃しを防ぎます。

4. 安心

専門医の紹介や医療施設との連携など、安心のサポートを提供いたします。

5. 「マイページ」でのデータ管理（撮影から 1 週間ほどで反映）

スマートフォン・PC で、予約から検査結果の確認、過去の履歴もマイページ上で管理できます。

※1 エルピクセル株式会社 (<https://lpixel.net/>) と読影 AI サポートの共同研究

※2 白質病変とは、血流が悪いために、髄鞘が壊れたり、血液や髄液がしみ出たりした状態。白質病変によって脳梗塞のリスクが高まると考えられている。

※3 読影は遠隔画像診断の株式会社エムネスと提携 (<http://www.mnes.org/>)

■メディカルチェックスタジオ(MCS)とは

MCS は、アンファー株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：三山 熊裕）およびスマートスキャン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：濱野 智章、神山 一彦）がプロデュースし、医学博士 知久正明氏（※）が院長として、2018 年 1 月、銀座一丁目に開業いたしました。そのコンセプトは「IT×予防医学×検診」。とくに、脳血管疾患の発症を未然に防ぐ検査にフォーカスしています。

主なサービスとして、スマートフォンや PC を活用し、予約から問診、検査結果の通知および管理まで一貫して行えるシステムと、放射線科医師と脳神経外科医師のダブルチェック体制および AI 画像解析補助(研究開発中)を活用したクラウド画像診断により、短時間かつ低価格での受診が可能となる「スマート脳ドック」を提供しています。

今後も「スマート脳ドック」の普及拡大はもちろん、健康経営の促進および生活習慣に起因した病気の予防という観点から、未病の可視化に努めてまいります。

※メディカルチェックスタジオ東京銀座クリニック院長 医学博士 知久 正明（ちく まさあき）

東京都出身、1994 年日本大学医学部卒業、2000 年日本大学医学部大学院修了。医学博士。国立甲府病院、国立循環器病センター、日本大学医学部循環器内科、敬愛病院附属クリニック院長を経て、2017 年 12 月から MCS 東京銀座クリニックを開業。専門分野は循環器内科(心臓血管内科)。日本内科学会認定医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本脈管学会認定医、日本医師会認定産業医、医療法人社団ウェルプリベンション理事長。

■メディカルチェックスタジオ銀座東京クリニック

〒104-0061 東京都中央区銀座 1 丁目 2-4

サクセス銀座ファーストビル 2F

TEL：03-6263-2570

Email：pr@medicalcheckstudio.jp

URL：<https://medicalcheckstudio.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

メディカルチェックスタジオ銀座東京クリニック 広報担当：五十嵐